

11 電磁場の量子化

1 【ランダウ準位】 z 方向に一定の磁場 B がかけられているとき, その中の, 電荷 q , 質量 m の荷電粒子について, 以下の問いに答えよ。

- (1) ベクトルポテンシャルは $A = (0, Bx, 0)$ とおけることを示せ。
- (2) 荷電粒子のエネルギー準位を求めよ。
- (3) (2) より, xy 面上でのエネルギー準位の単位面積あたりの縮退度を求めよ。

2 【電気双極子放射】 真空中で励起状態にある原子が光子を放出してエネルギーの低い準位に遷移する場合について考える。このとき, 量子化された光子のベクトルポテンシャルが, 単位体積について

$$A = \sum_{\mathbf{k}, \lambda} \sqrt{\frac{\hbar}{2\epsilon_0\omega}} \mathbf{e}_{\mathbf{k}\lambda} e^{i(\omega t - \mathbf{k}\cdot\mathbf{r})} a_{\mathbf{k}\lambda}^\dagger \quad (\lambda = 1, 2)$$

で与えられるとする。ただし, $\omega = (E_i - E_f)/\hbar$ (i, f はそれぞれ始状態, 終状態), $\mathbf{k}, \mathbf{e}_{\mathbf{k}}, a_{\mathbf{k}\lambda}^\dagger$ はそれぞれ光子の波数ベクトル, 偏りベクトル, 生成演算子である。

(1) 電子と光子の相互作用ハミルトニアンは, A^2 の項が無視できるとき

$$V = - \sum_{\mathbf{k}, \lambda} \frac{e}{m} \sqrt{\frac{\hbar}{2\epsilon_0\omega}} e^{i(\omega t - \mathbf{k}\cdot\mathbf{r})} \mathbf{e}_{\mathbf{k}\lambda} \cdot \mathbf{p} a_{\mathbf{k}\lambda}^\dagger$$

で与えられることを示せ。ただし, 電子の電荷を e , 質量を m とする。

(2) ハイゼンベルク表示 $[H_0, \mathbf{r}] = \frac{\hbar}{im} \mathbf{p}$ を用いて, $\langle f | \mathbf{e}_{\mathbf{k}\lambda} \cdot \mathbf{p} | i \rangle = -im\omega \langle f | \mathbf{e}_{\mathbf{k}\lambda} \cdot \mathbf{r} | i \rangle$ を示せ。ただし, H_0 は電子の無摂動ハミルトニアンとする。

(3) $e^{-i\mathbf{k}\cdot\mathbf{r}} = 1$ と近似し, \mathbf{k} の和を積分で置き換えることにより, 単位時間あたりの遷移確率

$$w_{if} = \frac{e^2}{4\pi\epsilon_0} \frac{4\omega^3}{3\hbar c^3} |\langle f | \mathbf{r} | i \rangle|^2 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{4\omega^3}{3\hbar c^3} |\langle f | e\mathbf{r} | i \rangle|^2$$

を求めよ。ただし, フェルミの黄金律

$$dw = \frac{2\pi}{\hbar} |\langle f | V | i \rangle|^2 \delta(E_f + \hbar\omega_k - E_i) \frac{d^3k}{(2\pi)^3}$$

を用いてよい。

3 【励起状態の寿命】 問2の結果を用いて, 水素原子の $2p$ 状態の寿命を求めよ。ただし, 前回までの結果 (8 定常状態の摂動論) を用いてよい。